

JIA東海支部愛知地域会ら

入賞作品5点を表彰 木造仮設住宅競技会

日本建築家協会（JIA）東海支部愛知地域会（野々川光昭地域会長）は、愛知県岡崎市とアースワーカーエナジーズとの共催で「木造仮設住宅デザイン提案大競技会2025」を実施し、応募があった9点の中から入賞作品5点を選定した。13日に同市の葵丘ホールで表彰式を開き、写真、野々川会長らが受賞者に表彰状を手渡した。

同競技会は、地域の森林資源の循環利用を促進するとともに、災害時に迅速に提供できる高品質な木材仮設住宅の普及を目指して開いた。建築家や学生から幅広く提案を募り、実現性、地域材の活用、持続可能性などの観点から応募作品を審査した。特に被災者に寄り添い、社会や地域の課題解決に寄与する次世代の仮設住宅の在り方を探求し



審査員長は、インスタント

ハウスなどによる被災地支援で知られる北川啓介名工大大学院教授、審査員は建築家の高野洋平千葉大大学院准教授、構造家の清水秀丸稲山女学園大学講師が務めた。表彰式であいさつに立った同支部の浅井裕雄支部長は「被災者と一緒につくる考えが盛り込まれた提案がいくつか寄せられた」と今回の応募作品の良かった点を振り返り、引き続き防災分野での協力を求めた。

各賞の受賞作品と受賞者は次のとおり（敬称略）。

- 〈岡崎市長賞〉
▽「住み慣れた地域の近くで」
川津悠嗣。
- 〈西三河林材団体連合会賞〉
▽「Bond Flame」
Uni Design。
- 〈北川啓介賞〉
▽「ちやっとい」
小林日向。
- 〈高野洋平賞〉
▽「ほそながい線のようないえ」
山田寛。
- 〈清水秀丸賞〉
▽「Well-being」
木造仮設住宅」
YMHY。

